

第3回香港国際舞踊会議報告

(The Third Hong Kong International Dance Conference)

就実女子大学 桑原和美

はじめに

The Third Hong Kong International Dance Conference (第3回香港国際舞踊^{*}会議)が1988年7月15日より23日まで9日間に渡って、Hong Kong Academy for Performing Arts (香港演芸学院)で行われた。またこの会議期間中平行して、International Festival of Dance Academies (国際舞踏学院舞踏節)1988も開催された。今回これらに参加の機会を得たので、ここにその概要を報告したい。

HongKong International Dance Conference (香港国際舞踏会議)とは

今年で3回目を迎えたこの会議は、1986年の第1回当初 International Festival of Dance Academies 開催を祝す記念の意味で開かれた。世界に散らばって活動している中国人舞踊家が会して親交を深める場として設定されたこの会議において、組織化された定期交流の場の必要性が認められたことが「International Sino Dance Association (ISDA)」誕生のきっかけとなった。

第2回目の会議には本学会の市川雅氏が招かれて出席された。この時は6日間の日程で、アジア各国の出席代表者からそれぞれの舞踊の現状が報告されると共に、Asian International Dance Alliance の設立が立案されている。

こうした過程を経ての第3回は、会議自体が独立したものとして、規模も、また内容的にも拡大傾向にあることは明らかなようだ。期間が9日間に延長されたことや、上記のアジアの舞踊連合という構想を太平洋沿岸地域へと枠を拡げ、「Asia Pacific Dance Alliance (APDA)」としたことはそれを裏付けていよう。また今回のテーマ「The Future of Dance in Asia (アジアにおける舞踊の未来)」は、現在ある伝統的な舞踊とこれからの舞踊の将来における理想的な関わり方を検討しようというもので、伝統的な舞踊について、一方において伝達と保存の方法を、もう一方では新しい舞踊創作の着想源としての可能性

という2つの視点から考えてゆこうとしている。さらにまた、3題のキーノートスピーチのうちの2題をハワイとロサンゼルスからの招待講演とし、この中ではアジアにおける舞踊研究のモデルとして、欧米の研究状況や進め方などが報告された。こうした点からも、この会議の視野が徐々に広がってきていることは間違いない。

なお今年のAPDAには日本から神沢和夫^{**}氏が出席されたので、詳細については氏に尋ねるとよいと思う。

組織と運営について

会議は「The HongKong Academy for Performing Arts (香港演芸学院)」と「The Hong Kong Institute for Promotion of Chinese Culture (香港中華文化促進中心)」の共同主催である。運営は前者の舞踊学部長Carl Walz氏と後者のディレクターTania Tang氏を中心とする各々の内部スタッフが担当した。会議の準備や進行以外にも、毎回のtea timeやpartyの準備、参加者の宿泊施設等の手配、細々とした要望への対応など、限りなくあるように思われる仕事を少数のスタッフが手際よく処理していく様子は印象に残った。

なお、この会議が「The Hong Kong Jockey Club Music Fund」の基金援助によって運営されていることにも触れておきたい。我々一般の参加者が支払った参加費用一切はUS \$10で、さらに宿泊ホテルの料金も通常の半分程になっているのは、この基金に負うものであると聞いた。経済的、社会的な格差がまだまだ大きいアジア諸国から、できるだけ広範囲に多くの参加者を集めるために、こうした基金による負担援助が非常に重要であることに初めて気付いた次第である。ちなみに今年は、中国、インド、インドネシア、韓国、日本、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、アメリカ、イギリス、オーストラリア、オーストラリア、香港から100名を越える参加があった。また公用語には英語と中国語が用いられた。

* 中国語の「舞踏」は日本語の「舞踊」に相当する。

** この他日本人では、神沢シゲ子、安藤幸、頭川昭子、吉葉美子、石水宗子、諸氏が参加された。

CONFERENCE PROGRAM

プログラムは大よそ、研究発表、パネルディスカッション、オープンクラス、レクチャーデモンストレーションから成り、その他にワークショップ、座談会、ビデオ放映などが組み込まれていた。(表2・A~D)

初日7月15日はオープンセレモニーの後、午前11時から会議のディレクター Carl Walz, Tania Tang 両氏の短いあいさつがあり、引き続いて3人の招待講演(キーノート・スピーチ)が行なわれた。

一人目の Judy Van Zile (ハワイ大学)は、「舞踊民族学研究—未来への挑戦」(Dance Ethnology Research: The Challenge for the Future)と題し、アメリカとヨーロッパにおける舞踊民族学研究の経過と現状を概観し、さらに、研究者にとって必要な訓練、ある舞踊についてのインサイダーとアウトサイダー及び研究者と演者などによる多角的な研究、記譜法、民族舞踊が本来の目的以外に利用されるようになった現代における研究者の役割、時間・空間・ジャンルに関する研究対象枠拡大への対応、情報交換や伝達的手段等の項目について言及した。

次いで「アジアにおける舞踊教育—インドネシアについて」(Dance Education in Asia with Special Reference to Indonesia)と題した発表では、インドネシア芸術協会の Dr. R. M. Soedarsono が、直面している問題点と課題に言及した。例えば、インドネシアでは公式行事やセレモニー以外の日常生活の中で一般市民が劇場に行って舞踊に接する機会はほとんどないので、舞踊家として生計を立てるということは極めて困難である。従って舞踊学校はあるが、生徒は教師になる者が多く、専門の舞踊家になる者は少ない。しかも彼らは卒業後舞台活動から遠ざかり、技術の進歩はみられない。また当然のごとく専門の舞踊団は生まれにくい等々である。彼は経済面や舞踊家育成に関してアメリカの状況を1つの理想像と考えているらしい。しかも高度経済社会日本の舞踊の社会構造はアメリカのそれと同じで、舞踊団は財団から資金援助を受けて、舞踊家は良い所得を得ていると考えており、インド、タイ、インドネシア等他のアジア諸国と比較しているようだが、このような誤まった認識は、情報や交流の不足に基づくものと思われる。筆者は、こうした誤解に困惑すると同時にアジアにおけるこの会議が相互理解に大きな役割を果たしうる場になることに大きな期待を抱いた。

第3番目は Yen Lu Wong による「ダンスビデオ—電子時代の新しい神話の創造に向けて」(Dance Video: Towards the Creation

of New Myth for the Electronic Age)であった。

オープンクラスとレクチャーデモンストレーションは各国の代表者や、フェスティバルに参加する団体の指導者が担当した。

神沢和夫氏は、オープンクラス「Modern Japan Dance」を担当され、約20名の熱心な受講者が集まった。それぞれまったく異なった舞踊の訓練を背景にもつ人達が互いに異文化の舞踊を体験した際、身体が見せる一種の拒絶反応のようなもの、短時間のうちにそのギャップを修正しようとする様子などは、自らの体験も含めて大変興味深く感じた。一方また、台湾のアミ族やチベット舞踊の、歌を口づさみながらの比較的単純な一連の動作の繰り返しは、「一体感」の基本的要素となるリズムと隊形に思い至らせてくれた。

この他、昼食時や休息時間に放映された各国のビデオプレゼンテーションは、短い時間の利用方法として有効と思われたが、今回日本からのものはなく少々残念にも感じている。

International Festival of Dance Academies (国際舞踏学院舞踏節)

ダンスフェスティバルは7月18日から22日の5日間、香港芸術学院内にある The Lyric Theatre で行なわれた。同学院は、舞踊、演劇、音楽、テクニカルアートの4部門から成り、この中の舞踊はさらに、中国舞踊、バレエ、モダンダンスの3つの専攻に分かれている。フェスティバルも3回目を迎えた今年は特に、舞踊部門最初の卒業生を送り出す記念すべき公演ということであった。

プログラムは、海外から舞踊専攻学生の団体を招いて国際色豊かな構成になっていた。(表3)しかしまた、一口に舞踊専攻の学生とは言っても各々学校の内容も異なっているところを見ると、明確な参加基準らしきものは今のところないように思われた。今回日本からは、花柳千代舞踊研究所が参加し、「雨の四季」、「うぐいす」、「晴天の鶴」、「藤娘」を演じた。幕が上がって華やかな振袖姿が明るい照明の中に浮かびあがった瞬間、客席から歓声があがったのが心に残っている。また、筆者は参加できなかったが、花柳千代氏によるレクチャーデモンストレーションも大変好評であったと他国の参加者から聞いている。

おわりに

振り返ってみると、やはり9日間という期間は長く感じられた。午前9時に始まり、夜のフェス

ティバル公演まで、ほぼ全部の時間帯が埋められており、こうした長い会議に慣れない筆者は上手く息が抜けなく、かえって緊張感が持続できなくなってしまうように思う。また国際会議でよく組み込まれているエクスカージョンはこの会議にはプログラムされていなかった。フェスティバルが毎晩あるので、日程の上で無理なのだと思う。

筆者が今回の会議参加を思ったのは、地理上では身近にありながら、意識として欧米より遠くにあったアジアで、舞踊が今どのような状況にあるのか知りたいという極めて素朴な関心からであった。舞踊に限らず我々の社会のあらゆる側面で、視線は常に欧米に向けられてきた。こうした状況は、インドネシアの Dr. Soedarson の発表にもみるように、他のアジア諸国の多くも同様であったと思われる。舞踊に関する情報について今までの欧米の社会文化を仲介役としてきた経路を1つとすれば、今後アジアの中での直接的なネットワークが必須というのは誰もが思い至るところである。この会議はまだ第3回と始まったばかりで、日程の組み方や内容の密度等々残された課題は多く、具体的な成果を問う段階ではないように思われる。むしろ今は、1回毎に少しずつ変わってゆくことこそ意味があるのではないか。「アジアにおける舞踊の未来」は、永遠に問われ続ける大きなテーマであろう。この地域で、共通の課題意識を持つ人々が集まり、互いの認識を深め、交流し、何かを生み出そうとする場となるべく発展しつつあるこの会議に今回参加できたことは十分意義があったと思っている。

この報告を書いているうちに早くも来年の第四回香港国際舞踏会議の案内が届いた。その内容を紹介して、この会議において日本は様々な点で大きな期待を寄せられていることを付け加え、さらに次回多くの方が積極的に参加されることを願ってこの報告を終りたい。

ソロ・パフォーマンス	7/15
児童舞踊公演	7/16
I S D A 会議	7/14-7/16
A P D A 会議	7/14-7/16
International Festival of Dance Academies (国際舞踏学院舞踏節)	7/17-7/21

※参加申し込み期限

1989年6月1日

※その他

- (1)テーマに関わる研究発表の希望者は、要旨(500 words)を1月15日までに提出のこと。☆英語もしくは中国語で。
- (2)前記「アジア・太平洋地域の舞踊家によるソロ・パフォーマンス」(7月15日)の出演希望者は、作品要旨、過去の新聞掲載記事、写真、ビデオテープ etc...を手紙に添えて、1月15日までに申し込むこと。

☆作品時間は20分以内

詳細の問い合わせは下記へ

The Forth HongKong International
Dance Conference
The HongKong Academy for
Performing Arts
Rm. 1001-5, Shun Tak Centre,
200 Connaught Rd.
HongKong

尚、末筆で恐縮ではあるが今回の会議期間中大変お世話になった石水宗子さん(香港在住)に、この場をお借りして改めてお礼を申し上げたいと思う。

第4回香港国際舞踏会議

- ※テーマ 「アジア・太平洋地域における伝統舞踊 — 保存と変化について」
- ※期日 1989年7月14日~22日
- ※場所 The HongKong Academy for
Performing Arts
- ※スペシャルイベント及び会議日程
アジアの伝統舞踊ワークショップ 7/10-7/14
舞踊批評セミナー 7/10-7/14
国際舞踊映像祭 7/10-7/16
アジア・太平洋地域の舞踊家による

〈表1〉 The Third HongKong International Dance Conference 日程表

	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日
9:00 ↓ 10:30	受付 開会式	研究 (A-1)		Tours of Academy Building	研究 (A-6) (A-7) オープンクラス (C-3)	研究 (A-8) (A-9) オープンクラス (C-1) (C-4)	座談会 オープンクラス (C-5) (C-7) (C-8)	パネルディス カッション	ISDA 会議 APDA 会議
コ ー ヒ ー ・ プ レ イ ク									
11:00 ↓ 12:30	キーノート スピーチ	研究 (A-2) (A-3)		フェスティバル 開会式	パネルディス カッション (B-2) デモンスト レーション (D-4)	研究 (A-10) (A-11) (A-12) デモンスト レーション (D-6)	パネルディス カッション デモンスト レーション (D-8)	パネルディス カッション	
児 童 舞 踊 公 演 昼 食									
2:00 ↓ 3:30	キーノート スピーチ	パネルディス カッション (B-1)			パネルディス カッション (B-3) オープンクラス (C-2) (C-5) (C-8)	オープンクラス (C-5) (C-6) (C-8)	オープンクラス (C-7)	パネルディス カッション	
テ ィ ー ・ プ レ イ ク									
4:00 ↓ 5:30	キーノート スピーチ	研究 (A-4) (A-5) レクチャーデ モンストレー ション		International Festival of Dance Academies Lecture Demonstrations (D-3) (D-5) (D-7) (D-9)				ISDA 会議	
夕 食									
7:30 ↓	自 由	Women Dancers of Asia Performance	夕 食 会	International Festival of Dance Academies					パ ー テ ィ ー

※ A・B・C・Dは〈表2〉のConferenceプログラムの記号を示す。

〈表2〉 Conference プログラム

A 研究

- | | |
|---|---|
| <p>A-1 Dance In the Philippines
Nestor O. Jardin</p> <p>- 2 Analysis of Ballet Training
In HongKong Shum Ying Ping</p> <p>- 3 The Relationship between the
Teaching of Chinese Dance
and Qigong Ng Nei Mei</p> <p>- 4 Dance Education for the
Young in Singapore
Chua Soo Pong</p> <p>- 5 Contemporary Choreography in
Dance in Malaysia
Marion F. D'Cruz</p> <p>- 6 The Origin of Dunhuang
Dance Gao Jin Rong</p> <p>- 7 Ballet in China and the
Chinese Adaptation
Cai Guo Ying</p> | <p>A-8 Making a Total Art Through
Zen Dance Technique
Sun Ock Lee</p> <p>- 9 Preservation and Transformation:
The Double Helix of Dance
Conservation Yen Lu Wong</p> <p>-10 The Value of Universality in
Dance Notation System, with
Selected Examples from
Labanotation Judy Van Zile</p> <p>-11 Man and Movement
Emma L. Thomas</p> <p>-12 A Method of Ethnographic
Analysis of Dance in Cultural
Context Sarai-Clark</p> |
|---|---|

- B パネル・ディスカッション
 B-1 Private Dance School
 in Asia Sony Lopez
 Gonzalez
 Shon Sei Ronn
 Miranda Chin
 - 2 Stage Design Brian Daniels
 Kevin Ho
 - 3 The Influences of Traditional
 Chinese Arts on Composers in
 HongKong Doming Lam
 Law Wing Fai
 Richard Tsang

- C オープンクラス
 C-1 Chinese Dance Wang P.Y., Wang
 M. C.
 - 2 Modern Japan Dance
 Kazuo Kamizawa
 - 3 Son-Mu: Zen Dance
 Sun Ock Lee
 - 4 Classical Indian Dance
 Menaka Thakker
 - 5 Ballet Dame Margaret
 Scott 他
 - 6 Ami Tribal Dance of Taiwan
 Pin Heng
 - 7 Tibetan School of Arts
 A. Kacum
 - 8 Modern Dance M. Wong, 他

- D レクチャー, デモンストレーション
 D-1 Traditional Dance of the
 Sulu Archipelago, Philippines
 Ligaya Fernando
 Amilbangsa
 - 2 Making a Dance for Children
 Wendy Chu
 - 3 Shanghai Dance School
 - 4 Laban Centre for Movement
 & Dance
 - 5 Tibet School of the Arts
 - 6 University of Utah
 - 7 HongKong Academy for
 Performing Arts
 - 8 Simon Fraser University
 - 9 Hanayagi Chiyo Japanese
 Dance Studio

〈表3〉 International Festival of Dance
 Academies プログラム

- 7月18日 HongKong Academy for
 Performing Arts (香港)
 Hanayagi Chiyo Japanese Dance
 Studio (東京)
 7月19日 Shanghai Dance School
 (上海)
 University of Utah (ユタ州)
 7月20日 Laban Centre for Movement &
 Dance (ロンドン)
 Tibet School of the Arts
 (Lhasa/拉薩)
 Simon Fraser University
 (バンクーバー)
 7月21日 Australian Ballet School
 (メルボルン)
 Taipei Institute of the Arts
 (台北)
 7月22日 ガラ・パフォーマンス